

まちづくり懇談会内容【決裁用】

日 時：令和元年 10 月 25 日（金）18 時 30 分～20 時 07 分

場 所：南部公民館

出席者：32 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町民：

日赤病院の問題について、日赤本社との話し合いはどのような状況なのか。

町長：

日赤本社と議論した際には、それぞれの病院が独立採算で運営しているというのが基本的な考え方。日赤病院を整備するにしても、町が全額支援して整備し、経営は日赤病院に任せることになる。

町民：

今現在、町からの補助額、日赤病院の赤字額はどのくらいか。

町長：

現在、町からは、救急や介護も含めて、日赤病院に対し 1 億円補助している。この補助額を含めて単年度では黒字経営になっているが、累積赤字が 30 億円あり、全額返済には至っていない。町からの補助額 1 億円のうち、国から 7 千万が入っており、実質町では 3 千万を支出している。近隣の町では、持ち出し額がもっと多いため、経営状態は比較的良いと言える。日赤病院の建て替えには 70 億から 80 億円かかると言われていて、できるのであれば、近隣の町で協力し広域連携で病院を作ることが理想。しかし、病院は町民の安心・安全の象徴となるものであり、どこの町でも自分の町の病院を無くすことはできないため、なかなか足並みが揃わないのが実情。まちづくり懇談会の中でもさまざまなご意見をいただいている。縮小した規模の総合病院を作り、専門的なもの

は岩見沢市や札幌市など、1次から3次医療圏で連携しながら進めていくことが良いのではないかという意見もある。

【町営バスに関して】

町民：

町営バスを利用している。午前中に帰ってくるバスが少なくて不便な思いをしている。

建設総括：

町営バスについては、コミュニティバスも含めて10台、1日8路線25便、コミュニティバスが1路線8便運行している状況。継立や滝下、鳩山、雨煙別などいろいろな地区から市街地に向かってきている。それぞれの地区の方が、朝、病院に来て、お買い物をして帰られる、というパターンで生活しているようで、皆さんの生活に合うようにたくさんバスを走らせることができれば良いが、全ての皆さんが満足のいく時間帯で運行していくのは難しい。今年、町営バスに関して、65歳以上の方全員を含む約5000人にアンケート調査を行い、半数以上の回答をいただいた。現在、分析中であるが、11時・12時台に空白の時間があるなど、多数のご意見をいただいている。その他にも、時間、便数、バスの大きさなど、さまざまなご意見をいただいている。令和4年度を目途に、まずは皆さんからいただいたご意見をもとに原案を作成し、町民委員会を設置して議論していただき、試験運行をしながら、できるだけ今よりも皆さんの意見を反映したバスの運行体制をとれるようにしたい。今後、説明会を行うこともあるかと思うが、ご協力いただきたい。

町民：

土曜、日曜、祭日、夏休みや冬休み、春休みなど、バスの運休が多くて不便。

建設総括：

バスは1年に1度車検をとらなければならない、1週間程度、点検や車検整備で運休している。バスの運休に関してもたくさんのご意見をいただいております、見直し作業が続いている最中であるため、ご理解いただきたい。

【栗山高等学校について】

町民：

栗山中学校から栗山高校への進学者が2割しかいない。他の学生はどこへ進学しているのか、分析はしているのか。

教育次長：

栗山中学校の今年3月の卒業生86人のうち、19人が栗山高校へ進学している。岩見沢方面への進学者が一番多く49人、その他は美唄市、三笠市、札幌市の公立・私立の高校などに進学している。栗山高校進学者の地域は、栗山町以外に、由仁町、南幌町、夕張市、岩見沢市などから進学してきている。本年度、栗山中学校から栗山高校への入学者が、前年度に比べて10%程度減少した。さまざまな分析を行っているが、南空知で

は学力が1番高いと言われている岩見沢東高校でさえ定員割れしている状況があり、全体的な少子化の影響で岩見沢市の高校へ入学しやすい状況となっている。しかし、本年度、岩見沢西高校が1間口減っており、来年度、岩見沢緑陵高校が1間口削減、その翌年は南幌高校が閉校するなど、近隣で間口削減が進んでいる。道教委側では、これまでは2年間定員割れが進めば強制的に間口を削減していたが、近年は、地域の小さな高校も残そうという考え方にシフトしている。しかし、栗山高校に関しては、今後このまま定員割れが進めば、どうなるかはわからない状況。

【栗山赤十字病院について】

町民：

日赤病院に小児科がないので、町では子どもの救急外来を診てもらえない状況だと思うが、今後必要な医療体制の取り組みの中に入っているのか。

福祉総括：

現在、町内の小児科は開業医の先生のクリニックがある。小児科の救急対応については、アンケートでもたくさんご意見をいただいている。日赤病院の改築問題と合わせて、開業医の先生たちも含めた町全体としての医療整備をしていかなければならない。耳鼻科や皮膚科など、小児科とセットでの診療が必要な科があるが、日赤病院では現在それらは週1回の診療しかなく、診察日以外は岩見沢市などで受診しなければならない状況もある。日赤病院の改築問題については本年度中に方向性を決めなければならないので、方向付けの後、診療科や診療時間など、小児科についても課題の一つとして、いろいろなご意見をいただいて検討していく。

町長：

日赤病院は救急告示病院であり、診療科として小児科はないが、小児の救急を診察しないというわけではない。親御さんの気持ちとしては、子どもの緊急時には、1回近くの医療機関できちんと診てほしいというのがあると思うが、現状は日赤病院の救急に子どもを連れて行ってもすぐに大きな病院へ転送してしまうというのが問題。日赤病院を改築するとなったら、そういった問題についても申し入れしていく。

【ボールパーク構想に関して】

町民：

ボールパーク構想として、初会合があったと聞いた。町としては、栗山監督の存在など、期待が持てる場所であると思うが、進捗をお聞かせ願いたい。

まちづくり総括：

今年7月に協議会が設置され、13市町や道、日本ハムの球団、交通事業者を含む関係団体が集まった。その中で3つの分科会が設けられ、今後、具体的な取り組みについて協議していく。3つの分科会については、1つ目は食の魅力提供、2つ目にスポーツひとづくり、3つ目に周遊策。各市町の担当者が出向き、今月初めに1度目の分科会が開かれたが、まだ動き始めたばかりで、各市町の資源やボールパークを通してどういった

ことが考えられるかなど、意見交換がメインであった。今後、2回目、3回目と開催されていくが、各市町の状況を整理し進めていく、といった流れが想定されている。

町民：

栗山監督の存在や、球場からの距離的なものもあり、条件的には栗山町は有利なのではないかという期待がある。栗山監督がいるから誘客できる、というところもあるが、具体的にお客さんをどう呼び込んでいくのか、どう備えていくのか。資料2の商店街活性化アクションプランの策定の中で、商店街と連携して行っていくのだと思うが、空き店舗・空き地の解消策として、スポーツコミュニティに対する活用を検討いただきたい。子どもたちが集まれば大人も集まると思うので、この機会に有効活用を考えていただきたい。

町長：

近隣4町はボールパークから30分圏内であり、発展をしていくきっかけづくりになるビックチャンスだと思っている。ボールパークで働く方々の移住定住の可能性や、栗山監督と連動した中でのスポーツの振興発展など、ボールパークの開設に向けて、積極的にいろいろなところにチャンスを見出していきたい。行政としても、民間の方々と連携しながら進めていきたい。

【町営バスに関して】

町民：

この場で町長からの報告を聞かせていただき、時代の流れの影響もあり、町にはこんなにたくさん問題があるのだと、驚きや落胆など、心を大きく動かされた。栗山町で開催される大きなイベントは、全て市街地で行われ、車の運転ができない高齢者はイベントに参加できない。行きたくても行けない方がたくさんいるため、イベントに合わせて臨時バスを出していただけたら、この地域の方はみんなすごく嬉しい。若い方は車で行けると思うが、高齢の方々は年間を通して町のイベントに1つも行けない。

町長：

建設課での町営バスアンケートでも、同じようなご意見をいただいております。私のところにも別の地域の方からも同じようなご意見をいただいている。夏祭り、秋まつり、老舗まつりなど、大きなイベントは市街地に集中している実態がある。そういったイベントは町をあげて、みんなで楽しめるように盛り上げていきたいため、検討していきたい。

【旧継立中学校跡地に関して】

町民：

継立中学校跡地について、廃校になってから5年経つが、何も動きがない。進捗状況を聞きたい。

まちづくり総括：

継立中学校は平成26年3月に閉校した。平成28年に1度公募をかけ、1社応募があ

ったが、審査で決定には至らなかった。その後は、正式な公募はかけていないが、都度、町内外の事業者から、物件を活用したいという要望が年に数件寄せられている。最終的な決定に至っていない理由としては、敷地も含めて物件がとても大きいことが1つ。また、近隣に小学校があり生徒が通行するため、車両を活用する事業者にとっては、安全面で地域の方にご理解いただけないのではないかという理由もあり、これまで実現していないのが現状。今年に入って2社程度話をいただいております、現在、事業者の方と話を詰めているが、年末くらいに地域の皆さんにあらためて状況を含めて説明させていただきたい。その2社との話も進めながら、もう1度公募という形をとり、その結果を含め進めていきたい。